

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 18 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370844

研究課題名(和文)古ウイグル手紙文書集成

研究課題名(英文)Corpus of the Old Uighur Letters

研究代表者

森安 孝夫 (MORIYASU, Takao)

大阪大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：70157931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、9世紀後半～14世紀のウイグル人によって、古ウイグル語(古代トルコ語の一種)で紙に書かれた手紙文書の訳註を自指している。ほとんどが中国のトゥルファン盆地と敦煌莫高窟のいずれかで、20世紀に発見されたものである。現在はベルリン・パリ・ロンドン・サンクトペテルブルグ・京都・北京などの図書館ないし研究機関に保存されているものであり、現時点で私が把握しているのは、実物並びに内容的に取るべき部分のある草稿を合わせて、約200件である。ほぼ全てについて原物を調査し、古文書学的情報と合わせてテキスト・英訳・訳註を提供する。

研究成果の概要(英文)：This study attempts to edit the letters that were written on paper in Old Uighur (a form of Old Turkic) by Uighurs of the ninth to fourteenth centuries. The majority of these letters were discovered in the twentieth century in China, either in the Turfan Depression in the Xinjiang Uighur Autonomous Region or in the famous Mogao Caves of the Thousand Buddhas at Dunhuang in Gansu. Today they are held by various libraries or institutions in Berlin, Paris, London, St. Petersburg, Kyoto, Beijing, and so on. At the present point in time, I have identified approximately two hundred letters, made up of both actual letters and also drafts that deserve to be included on account of their content. I have checked the original of almost all of them, and offer the text, translation, commentary, and paleographical information about the quality of the paper.

研究分野：東洋史学

キーワード：シルクロード トゥルファン 敦煌 手紙 ウイグル トルコ語 中央アジア 古文書

1. 研究開始当初の背景

本研究の対象である中央アジア出土の古ウイグル手紙文書とは、9世紀後半～13世紀初頭にトゥルフアン盆地を含む東部天山地方を中心にして存続した西ウイグル王国の人々と、その地がモンゴル帝国の支配下に入った13～14世紀のウイグル人(旧西ウイグル国人)によって、ソグド文字に由来するウイグル文字を用い古ウイグル語(古代トルコ語の一種)で書き残された生の史料である。10世紀前後にはまだ欧州に紙は普及していないが、これらは全てが紙に書かれている。インクは中国式の墨であるが、毛筆ではなく葦ペンないし木ペンを使用している。ほとんどが中国の新疆維吾爾自治区にあるトゥルフアン盆地内の複数の遺跡と、甘肅省にある敦煌莫高窟のいずれかで20世紀初頭に発見されたものであり、例外的に20世紀後半に敦煌莫高窟の北区石窟や河西回廊のカラホト遺跡からも出土した。

典籍である『大慈恩寺三蔵法師伝』ウイグル語訳本に含まれる手紙の研究は別として、生の一次史料である古ウイグル手紙文書のまとまった研究としては、長らく次の3件があるだけであった。

S. Tezcan / P. Zieme, "Uigurische Brieffragmente." In: L. Ligeti (ed.), *Studia Turcica*, Budapest: Akadémiai Kiadó, 1971, pp. 451-460, +6 pls.

P. Zieme, *Manichäisch-türkische Texte*. (BTT V), Berlin: Akademie Verlag, 1975.

J. Hamilton, *Manuscripts ouïgours du IXe-Xe siècle de Touen-houang*. 2 volumes, Paris: Peeters, 1986.

しかるに今回の3年間の科研(C)による研究開始の直前までに、筆者は次のような研究を日本語と英語の両方で発表していた。これは上記の①～③で発表された手紙も含む古ウイグル語手紙文書全体の書式研究である。

森安孝夫「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式(前編)」『大阪大学大学院文学研究科紀要』51, 2011/3, pp. 1-86.(和文版: pp. 1-31 + 和英文献目録 in pp. 70-86.)

T. Moriyasu, "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1)." *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 51, 2011/3, pp. 1-86. (English version: pp. 32-69 + bilingual bibliography in pp. 70-86).

森安孝夫「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式(後編)」, 森安孝夫(編)『ソグドからウイグルへシルクロード東部の民族と文化の交流』東京, 汲古書院, 2011/12, pp. 335-425.

T. Moriyasu, "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern

Silk Road (Part 2)." *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 52, 2012/3, pp. 1-98.

2. 研究の目的

20世紀初頭に西欧列強や日本が中央アジアに派遣した探検隊が発掘・将来した多種類の言語で書かれた古文書のほとんどは、現在ではベルリン・パリ・ロンドン・サンクトペテルブルク・京都・北京・フフホト・敦煌・ウルムチ・トゥルフアンなどの各図書館・研究機関に所蔵されている。そうした出土文書の大半は仏教・マニ教・キリスト教などの宗教文献であるが、それを除いた世俗文書においては、契約文書と手紙文書がかなり高い割合を占めている。私は古ウイグル語の手紙文書を博搜してその集成を構築し、世界のトルコ文献学界の共有財産として提供するだけでなく、中央アジア出土の漢語・チベット語・ソグド語・バクトリア語・ガンダーラ語など古ウイグル語以外の手紙との書式上の比較研究を行なう基盤を確立し、今後のシルクロード地帯における文化交流史の解明に貢献することを目指してきた。

歴史学者である私自身は、これらの手紙文書をシルクロード地域の歴史を復元するための史料として使うために、30年以上の長きに亘って原物調査とテキスト作成を積み重ね、ライフワークとして『古ウイグル手紙文書集成』を出版することを目指してきた。しかしながら、同時にこの集成は、ユーラシア各地に分散したトルコ系諸民族の言語を研究するトルコ言語学の専門家にとっても、比較の材料として貴重である。古代語の解読作業にはこれで完成ということはない。古ウイグル語手紙文書全体に関していえば、我々の30年以上に及ぶ研究によって、ようやく90パーセント程度は解明できたと言える段階に達したが、100パーセントにはまだほど遠いのである。

ところが、まことに偶然ながら、本研究の最終段階であるこの3年間に、世界最高の古代トルコ文献学者である P. ツィーメ教授が日本に滞在することになった。その僥倖を捉え、同教授の協力を仰いで念願の『古ウイグル手紙文書集成』を完成させるのが、この3年間の目的であった。そこでこの3年間には、同教授と一緒に世界各国の図書館や研究機関に散在する原文書を再調査し、断片類の多い中央アジア出土古ウイグル文書の中から手紙類を1件でも多く抽出することと、古文書学的情報の追加見直しをしながら最終的なテキストと訳註を作成することを最大の目的とした。もちろん、その際には前項1に掲げた拙稿・・・を踏まえて、それと対照しながら研究を推進していくのが基本方針である。その過程でもし・・・に増補修正を加える必要が生じた場合は、当然ながらそれを明記し、古ウイグル

語の手紙書式に関する私の最終見解をまとめたい。

3. 研究の方法

(1) 中央アジア出土古ウイグル文書を所蔵する研究機関に赴いて、原物を実見調査する。それが不可能な場合は、できるだけ美しい写真の入手に努め、インターネットで公開されている文書画像にアクセスする。

(2) 断片類の多い中央アジア出土古ウイグル文書類の中から、手紙類を1件でも多く抽出するために最良の手段は、手紙独特の書式と定型句を発見して、明確な基準を作ることである。

(3) これらの手紙類には紀年がないので、歴史史料として活用するための指標の発見を目指して、内容のみならず、紙質・形態・書体などについて精度の高い古文書学的情報の収集に努める。因みにウイグル文字の書体を1) 楷書体, 2) 半楷書体, 3) 半草書体, 4) 草書体という4つのカテゴリーに分け、書体による時代判定が可能なことについては、幾篇もの拙稿で主張してきた通りである。

(4) 集積した手紙文のテキストと古文書学的情報の分析のために、コンピュータを活用する。

(5) 古ウイグル語の手紙の書式と定型句を確定するためには、ウイグルと密接な文化交流をしたと思しき周囲の言語集団の残した多言語文書との比較研究にも注意を向ける。

(6) 古ウイグル語は古代トルコ諸語の1つであり、しかもトルコ語は古代語・中世語と近現代語の間の連続性が極めて高い。そこで手紙の中の不明語を1つでも減らすため、膨大な量の近現代トルコ語諸方言辞典にアクセスする。

4. 研究成果

現在は各所蔵機関の努力により、原物のカラー写真がインターネットで公開されるようになりつつあるが、それでもなお原物を実見した上での詳細な古文書学的情報の提供とローマ字転写テキストの作成・公開が、学界を裨益する最良の方法であることに変わりはない。しかも今回の3年間は、世界最高のトルコ文献学者である P. ツィーメ博士が偶然にも日本に滞在する時期と重なり、ローマ字転写テキスト作成に全面的協力を得ることが可能となった。

3年間で古ウイグル手紙文書を所蔵する図書館・研究機関のあるベルリン・パリ・ロンドン・サンクトペテルブルク・京都・北京・フフホト・敦煌・ウルムチ・トゥルファンなどを全て再訪問して原文書を実見することは無理なので、所蔵文書数の最も多いベルリンのベルリン＝ブランデンブルク科学アカデミー、サンクトペテルブルクのロシア科学

アカデミー東方文献研究所、及び京都の龍谷大学大宮図書館という3所蔵機関をツィーメ教授と共に訪問し、原文書を再調査することに重点を置いた。

上記の3箇所に次いで所蔵文書数が多いのは、パリのフランス国立図書館とロンドンの大英図書館であるが、それについては前回の科研(C)によって森安が原物調査を終えていたので、今回は森安所有の大型写真とインターネットで公開されている写真を使ってツィーメ教授と読み合わせを行なった。さらにツィーメ博士とは、原物や写真によって古ウイグル語テキストを何度も読み直しただけでなく、難解な用語については古代トルコ語・ソグド語・サンスクリット語・ペルシア語の辞書のみならず、ツィーメ博士がパソコンに集積している膨大な量の近現代トルコ語諸方言辞典のデータベースを駆使しながら議論を進めた。

それによって、ベルリン・ブランデンブルク科学アカデミー、ロシア科学アカデミー東方文献研究所、龍谷大学大宮図書館、フランス国立図書館、大英図書館所蔵の古ウイグル手紙文書については、古文書学的情報についてもローマ字テキストについても、もはやこれ以上は望めないという程度まで調査・研究をやり終えた。もちろんそれで当該ウイグル文書のテキストに不明箇所がゼロになったわけではないが、前回までの段階でようやく90パーセント程度は解明できたと言っていたのが、これで95パーセントは確実なテキストが作成できたと思われる。

目下は、『古ウイグル手紙文書集成』を英文で *Corpus of the Old Uighur Letters* と題して完成させ、それを Berliner Turfantexte シリーズにおいて発表する最終段階の調整中である。その目次は次の通りであり、主要部はほぼできあがっているが、この種の史料集成本には必須の Glossary, Indexes of proper names, General concordance の作成にはまだ少し時間がかかりそうである。

I. Introduction

I-1. The relationship between this book and my previous research

I-2. The selection of letters included in this corpus

I-3. The periodization of Old Uighur letters and religious distinctions

I-4. The classification of epistolary formulae according to naming formulae

I-5. Explanatory remarks on the treatment of documents in Chapter III

II. Explanatory remarks

II-1. System of transcription

II-2. Explanation of symbols and conventions

III. Texts, translations and commentaries

III-1. Type A: Specific form of letter to superior with visual characteristic (used for a superior deserving special respect)

III-2. Type B: Specific simplified form of letter to superior

III-3. Type C: Specific form of letter to inferior with visual characteristic (used when the superior-inferior relationship is well-defined)

III-4. Type D: Non-specific form I (with a term indicative of a letter and used for superiors, peers, and inferiors)

III-4-1. Type D1

III-4-2. Type D2

III-5. Type E: Non-specific form II (without any term indicative of a letter and used for superiors, peers, and inferiors)

III-5-1. Type E1

III-5-2. Type E2

III-5-3. Type E3

III-6. Type unidentified

III-6-1. Type unidentified in semi-square script

III-6-2. Type unidentified in semi-cursive script

III-6-3. Type unidentified in cursive script

IV. Glossary

V. Indexes of proper names (personal names and place names)

VI. Abbreviations

VII. References

VIII. General concordance

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

森安孝夫「東ウイグル=マニ教史の新展開」『東方学』126, 2013/7, pp. 142-124(逆頁).

森安孝夫「黄文弼発現的《摩尼教寺院経営令規文書》」(白玉冬 訳), 荣新江(編)『黄文弼所獲西域文献論集』北京, 科学出版社, 2013/10, pp. 136-176.

森安孝夫「東ウイグル帝国カリ Chol 王子墓誌の新研究」『史艸』56, 2015/11, pp. 1-39.

T. Moriyasu, "New Developments in the History of East Uighur Manichaeism." *Open Theology* 1, 2015, pp. 316-333.

森安孝夫「漠北迴鶻汗國葛啜王子墓誌新研究」(白玉冬 訳), 『唐研究』21, 2015, pp. 499-526, +1 pl.

〔学会発表〕(計4件)

T. Moriyasu, "New Developments in the History of East Uighur Manichaeism."

Collegium Turfanicum, at the Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften in Berlin, 27 August 2014.

森安孝夫「ユーラシア世界史と古ウイグル民族の歴史的意義 付:新出カリ Chol 王子墓誌銘の新解釈」第53回日本女子大学史学研究会大会, 日本女子大学・新泉山館国際交流センター, 2014年11月29日.

森安孝夫「回鶻カリ Chol 王子バイリンガル墓誌銘の新解釈」第53回中央アジア学フォーラム, 大阪大学・文学研究科本館2階・大会議室, 2015年3月28日.

森安孝夫「ユーラシア世界交流史とシルクロードの手紙文書」神戸市外国語大学・三木記念会館, 2015年10月1日.

〔図書〕(計3件)

森安孝夫『東西ウイグルと中央ユーラシア』名古屋, 名古屋大学出版会, 2015/2, xvi + 842頁, カラー口絵2頁, 地図3枚.

森安孝夫『ウイグル=マニ教史関係史料集成』=『近畿大学国際人文科学研究所紀要』平成26年度版・全冊, 2015/3, 137頁, カラー図版16枚.

森安孝夫『シルクロードと唐帝国』(学術文庫版「興亡の世界史」), 東京, 講談社, 2016/3, 425頁.

〔その他〕

大阪大学・東洋史学研究室のホームページの名誉教授の欄に個人情報あり: <http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/members/moriyasu/index-j.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

森安 孝夫 (MORIYASU Takao)

大阪大学大学院・文学研究科・名誉教授
研究者番号: 70157931

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし